

花と緑のまちづくり

第2回神戸まちなみ緑花コンクール

美しいまちなみの
発展を願って

人々に潤いと安らぎ
を与えてくれる、花や
緑いっぱいのまちを目
指して、神戸市では、
市民の皆様とともに
「花のまち神戸」運動
を進めています。その
結果、市内各所で市民
の皆様の協力を得て、
美しく飾花された住宅
やマンション、花や緑
で飾られた通りや家並
みが見られるようにな
りました。

そこで、個性的で景
観に配慮した美しいま
ちなみを形成している
個人の住宅や集合住宅、
家並みなどの花や緑の
ある景観をより一層推
進するために昨年から



今年の参加作品の一例「まちなみ緑花部門」 ↓ ・ (住宅緑花部門) ↑



「神戸まちなみ緑花コ
ンクール」を神戸市と
(財)神戸市公園緑化
協会が協力してはじめ
ています。

コンクールの成功と
発展に向けて

コンクールは、第1
次の写真審査と第2次
の選考委員による現地
調査により、草花等の
管理、育成状況やまち
づくりへの貢献度等を
総合して行われます。

このコンクールが、
ますます発展すること
を願い、また今後のま
ちづくりの発展にも寄
与することからこうべ
まちづくりセンターで
は、第1回から同コ
ンクールを協賛してい
ます。

こうべまちづくり会館ギャラリー秋の企画展
小磯記念美術館協力

小磯良平作品展

開催期間：11月2日(木)～21日(火)・水曜日休館

開館時間：午前10時～午後6時

入場無料

第4期 こうべ市民安全まちづくり大学が開講しました

平成12年9月、第4期「こうべ市民安全まちづくり大学」がスタートしました。今年は、入門講座・まちづくり講座の両講座とも、募集定員をはるかに上回るご応募をいただき、今期は入門講座185名、まちづくり講座71名の皆さんに受講していただくことになりました。

開講式は9月5日(火)の午後6時30分から、神戸市教育会館にて行われ、笹山市長と学長からごあいさついただきました。なお、今期の学長には、神戸大学工学部長・都市安全研究センター長の森脇俊道先生にご就任いただいています。



市長あいさつ：

震災をはじめ、私たちの安全・安心を脅かすさまざまな出来事が相次いで起こっている。それらに遭遇した際に、知識や経験があるとないでは大きな違いがある。防災や防犯に関する知識の習得と人材育成のために当大学を開校した。ここで正しい知識を身につけるとともに、各地域のリーダーとなってほしい。修了した方々はすでに各地域で安全マップづくりなどに活躍されている。皆さんもここで学んだことを、地域で率先して生かしていただきたい。



学長あいさつ：

震災以来、神戸だけでなく各地で防災に対する関心が高まっている。そうした中で、神戸大学では平成8年度から都市安全研究センターを設置した。ただ、防災というのは単に研究者が大学で研究しているだけでは不十分であって、市民の皆さんのご批判をあおぎ、成果を実際に活用していただいてこそ意味があると考えている。本大学では、私たちの研究の成果を皆さんに分かりやすくお伝えしていきたい。皆さんにとって実り多い講座になるよう祈念している。

式典終了後、開講記念として神戸大学都市安全研究センター副センター長の室崎益輝教授から、「安全で安心なコミュニティづくりを進めるために」という演題でご講演いただきました。

☆☆ 平成12年度 こうべ市民安全まちづくり大学 ☆☆
☆☆ 第1回上級コース・同窓会が開催されました ☆☆

平成12年8月26日、兵庫県私学会館で、第1期～第3期市民安全推進員を対象にした上級コースと同窓会が開催されました。当日は推進員の皆さんのうち、上級コース49名、同窓会34名が参加し、上級コースでは、「『もしもの場合、あなたは何を』 - 防災ボランティア活動を考える -」と題して、京都大学防災研究所 教授 林春男先生にご講演をいただきました。

講演では、主に、地域における防災活動についてお話していただきましたが、特に、次の2つのことが印象的でした。

◆地域活動を長続きさせるコツは、「無理をせず、できる範囲で」

～地域活動を長続きさせるためには、

1. 息長く、
2. 相手の求めるものを中心に、
3. 定期的に、
4. 自立支援を目指して、
5. 組織活動の透明性を保つこと、が必要

◆「防災おたく」ではなく、災害に関する「率先市民」となる
～「率先市民」とは、

1. 地域を襲う危機への理解を深め、
2. 被害軽減力を向上させる活動(例えば、人と人とのつながりを大切にし、地域の課題の解決に主体的に取り組む活動など)を強化する、市民のこと

◆◆◆ 林先生の講演終了後に行われた、推進員の活動報告と林先生の講評をいくつかご紹介します。 ◆◆◆

●震災後の防災意識の低下(東灘区 渡辺さん)

私を含めて防災への関心が薄れつつあるように思います。地域の住民が知識を深めながら、地域全体の意識向上に努めていますが、なかなか進みません。何かいいアドバイスはありませんか？

○林先生：このような防災意識の低下は行政にも見受けられます。震災直後、防災は花形のように言われましたが、最近では予算もつかないのが現実です。どうしても防災だけを目的にするのは、無理がありますので、さまざまな事業の中に防災の視点を少しでも加えるようにして、次の世代に伝えていくべきではないでしょうか。

●地域活動、住民相互の交流・連携(西区 藤田さん)

私が住んでいる地域では、ニュータウンと昔ながらのコミュニティとが混在する地域です。市民安全推進員として、活動を一緒にしたいが、古いコミュニティに相手にしてもらえません。どうすれば活動をともにできるでしょうか？

○林先生：ニュータウンで新旧住民の交流がなかなか進まないのは、共通の利害が存在しないためです。共通の接点としては、子どもと学校が考えられ、青少年問題、トライやるウィークなどを通して、防災を考えるのもいいかと思います。また、ニュータウンでは、子どもや女性達が主な担い手になるので人と人とのつながりをつくるきっかけとして防災を考えることが有効ではないか、と思います。

※その他の推進員の方々も地域でさまざまな活動に取り組んでいらっしゃいます。また、別の機会にご紹介したいと思います。

複雑系とまちづくり (6)

●インフィオラータの創発

社会派の論客でもあるボランティア団体のH氏から、創発(Emergence)という言葉は、英和辞典には載っているが、広辞苑には載っていないと教えてもらった。多分、日米の認識の差だろう。単一民族国家では、合意形成が「和」で行なわれ、なんでもトップダウンで予定調和的に進められる。しかし、米国は多民族と多様性の国であるため、ボトムアップで進める以外の方法が無い。日本でも高度成長が終わるとともに多様性の時代に突入し、最近のITの世界は猛烈な自己組織化の中にある。昨今言われている、ボトムアップな進め方や市民参画というのは「良い」からするのではなく、ほかに選択肢が無いという、実は単純な状況であるともいえる。

筆者は'96に初めて複雑系を知って眼から鱗が落ちたのであるが、かねてより胸中にあった美緑花系のまちづくりを、複雑系の視点から展開できないかと考え始めた。それが'97のインフィオラータ三宮東である。

その頃は、複雑系について耳を傾けてくれる人がいなかったの、こっそりやることにした。

準備・実施については、地元など実行委員会の組織化、資金とチューリップの調達、花絵発表チームの募集、ボランティア募集など、複雑を極めるといっていい。筆者は、人と人の情報交換を促すことに集中し、フォーティズム的な(自動車の製造過程のような)トップダウン、つまり役割とスケジュールを予めかっちり決め、担当者におろしていくというアプローチはとらなかった。

「誰かを実行委員長にたてて、きちんとした組織を作って、それで取り組まんとあかんのちゃうか？」

「今までのやり方はそういうやり方やったけど今回はしたい人だけ寄って適当にしたらええ、震災のときそうやったやないか。おもしろいなと思う気持ちだけが大事なんや。」三宮あじさい通り商店街を中心にした実行委員会は、こんないい加減な会話から始まった。

本番の日もいいかげんである。「ワシらどういう動きしたらええねん」「回りをよう見て、臨機応変に動いてんか」役回りは勝手にはまってしまう。

昔、先輩から聞いた言葉を思い出した。「仕事をまちの人と一緒にしようと思たらな、まず組織を作らして、そこに助成金を流し込んで仕事をしてもらわな。これが協働のやり方や」これで震災前までは通用していた。上司が心配するので、一応、綿密な計画や進行を書いてはいたが、トータルで500人を超える各種のボランティアをトップダウンでコントロールする気はなかったし、無理だろうと思っていた。

チューリップの花びらむしりが始まると、ボランティアの市民は思い思いにコロニー(群落)を作って、おしゃべりしながら(相互作用しながら)作業を進めていく。指示は最初に簡単にしただけで、高い所から作業



現場を見ていると、コミュニティが確かに自己組織化し、創発している。しかも、現場状況の変化により、コロニーの様相はダイナミックに変化しつづける。

花絵チームも、花びらむしりコロニーから花びらをもらい、運び、下絵の上に花びらを置いていく。花絵それ自体は一定の秩序だが、人間の動きがカオスの縁なのだ。筆者の前に本コラムを連載していたM氏(前中央区まち推課)も「完成した花絵もいいが制作過程が一番面白い」と言っていた。ということで、インフィオラータは創発の実証だったのである。

この後、インフィオラータは市内数カ所に伝播していき、各地でインフィオラータコミュニティが創発していった。今後、トップダウン型にならない限り面白さは失われないだろう。

●コミュニティの創発条件

- 1) 共有し易い分かりやすい目標があること。
- 2) ハード的にもソフト的にも白紙領域の場があること。
- 3) 相互かつ双方向のコミュニケーションが確保されること。

要素還元型秀才が、難解で複雑な上位計画から出発し、トップダウン方式で、ハード空間やソフト空間の白紙領域をひたすら塗りつぶしていくとどうなるか？見事に上記3条件に反してしまう。

長さ数kmの橋を作って数mmの誤差しかないというハードな世界と、人間が主役であるソフトな世界のアプローチは正反対の方向を向いている。

話は変わるが、IT革命は広大な場とコミュニケーションを提供し、創発の場・加圧の縁となった。例えば今、全世界のネットのドメイン名を管理している委員会の理事選挙はネット上で行なわれている。ネットによる直接参政の時代が既に始まっているのだ…。

♪これで連載とりあえず終了です。やったー！

森田 拓也(市民局市民活動支援課主査)

次号からの掲載は、浜田有司氏(住宅局住環境整備課係長)の「歴史を活かすということ」です。お楽しみに！

まちセンのイベント案内

親子で歩こう、兵庫津の道

～親子でこうべの魅力再発見～

まち歩きをし、まちの「魅力地図」を作ります。日ごろ気づかぬ、まちの新しい見方を考えましょう。

日 時：11月5日（日）午後1時～4時30分

集合場所：健康ライフプラザ（JR兵庫駅前）

参加御希望の方は、往復ハガキで10月16日（当日消印有効）までに小学生（学年を明記）を含む親子（3名以内）で

〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

こうべまちづくりセンター 宛に

返信用にも、住所・氏名をお忘れなく。30組を超えた場合は抽選になります。

募
参
集
加
中
者

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
9月28日(木)～10月3日(火)	2000年神戸芸術学林絵画展 (油彩・水彩等)	神戸芸術学林
10月5日(木)～10日(火)	第22回CPM展(油彩・水彩等)	三菱重工・神戸造船所洋画部
10月12日(木)～17日(火)	日本画 柏樹会展	左野 柏樹
10月19日(木)～24日(火)	朝日カルチャー(水彩・パステル)	日下部 治男
10月26日(木)～31日(火)	遥洋会油絵展	遥洋会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

10月1日(日)～31日(火)	第2回神戸まちなみ緑花コンクールパネル展	神戸市・神戸市公園緑化協会 元町4丁目商店街・アスク音楽院 こうべまちづくりセンター
10月22日(日) 午後2時・4時	パチュニアサロンコンサート	

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
(こうべまちづくり会館 3F)
電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 土・日・祝日は
まちづくり相談コーナー で受け付けます
(こうべまちづくり会館4F)
時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)
会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
受付:午前10時～午後6時(水曜・年末年始は休館)
電話 078-361-4565



9月号の新着図書案内に、図書名の間違ひがありました。
誤「まちづくりの経済学」→正「町おこしの経営学」
誤「21世紀へのまちづくり」→正「21世紀への道づくり」
訂正するとともに、お詫び致します。